

達人 Professional vol.31

2023年4月

Contents

特集 2023年度事業計画・抱負
職能部門別 今年のトピック

NEWS 小線源療法開始について

第74期新卒新入職員紹介

慈愛会フィロソフィ

在宅医療リレーエッセー

慈愛会の達人たち/人事情報

第4回 「心に届く慈愛の物語を 紡ぐ会」

琴線に触れるエピソード15編を作者が朗読



令和5年5月20日(土)

9:20 - 12:00 受付開始8:50

かごしま県民交流センター県民ホール

問い合わせ先: 法人事業本部 教育開発センター Tel.099-263-8151 内線: 2060
看護部支援室 Tel.099-230-0063 内線: 2030

催しのご案内

第4回

「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」

日時: 2023年5月20日(土) 9:20開始

会場: かごしま県民交流センター県民ホール

各事業所にライブ配信!

現地参加・リモート参加 お待ちしています!!

▶記事はP18へ

学術集会のご案内

第3回 慈愛会学会学術集会

日時: 2023年7月1日(土) 8:50開始

会場: 鹿児島県市町村自治会館

多くの皆様のご来場・ご参加を
お待ちしております!

▶記事はP18へ



令和5年7月1日(土)

大会長: 野村 秀洋 (介護老人保健施設愛と結の街施設長)

会場: 鹿児島県市町村自治会館

【慈愛会学会運営委員会】事務局: 教育開発センター
TEL: 099-263-8151 (内線2060)
E-mail: jgakakai@jiaikai.jp

医療の原点は、慈愛にあり。

母が子を慈しみ育てる心、愛を持って病める人の苦しみを除く。
慈しみ、愛する心、その素朴で純粋な気持ちが慈愛会の医療理念です。

患者様を肉親と思い医療の達人(プロフェッショナル)を目指します。
同時に全職員の物心両面の幸せを追求します。

公益財団法人慈愛会 施設一覧

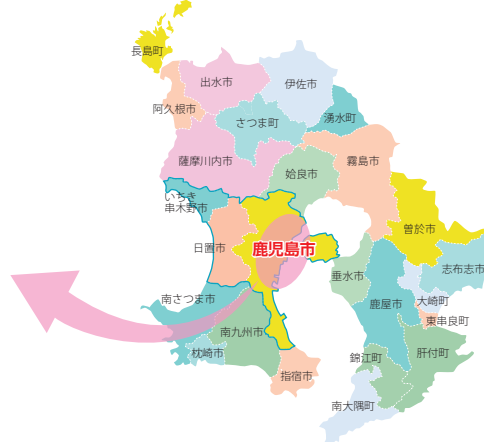
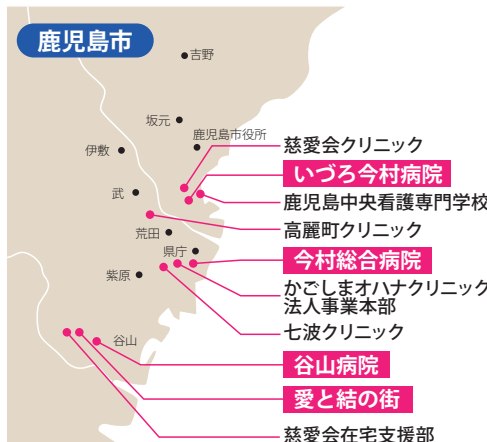
鹿児島市を中心とした鹿児島二次医療圏（推計人口 約66万人）¹⁾



今村総合病院 428床
急性期一般病床 330床
回復期リハ病床 50床
精神病床 48床



いづろ今村病院 115床
急性期一般病床 35床
地域包括ケア病床 58床
緩和ケア病床 22床



鹿児島中央看護専門学校

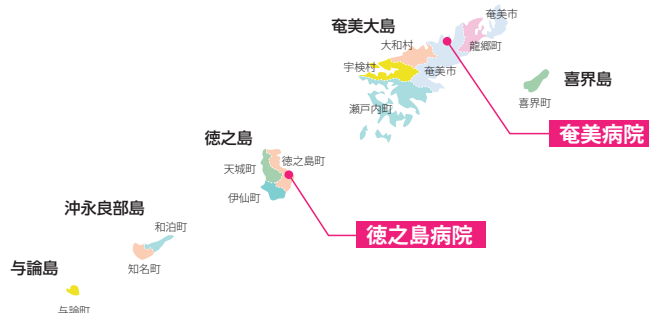


介護老人保健施設 愛と結の街
(入所定員 100床)



谷山病院
(精神病床 392床)

奄美二次医療圏（推計人口 約10万人）¹⁾



総病床数 1,589床

職員数 2,449名
(2023年3月1日現在)



慈愛会クリニック



高麗町クリニック



七波クリニック



かごしまオハナクリニック



奄美病院
(精神病床 348床)



徳之島病院
(精神病床 206床)

新年度スタートにあたって

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



令和5年度が始まりました。

3年間続いた新型コロナ禍も、医療機関における対応は変わらないままに、平時の日常生活に戻ります。医療機関では、有事のコロナ対応と平時の診療の両方を提供することを求められます。鹿児島市内の総合病院では、看護職の離職が多く、職員募集が十分にできず、一部病棟の閉鎖を余儀なくされたところもあります。当法人では124名のスタッフが入職してくれました。当法人を選択くださったスタッフの皆さんに感謝申し上げます。これから一緒に頑張っていきましょう！

当法人は、来年度90周年を迎えます。私の役割は、90年続いた当法人が、次の90年続くためにはどうすれば良いかを考えることです。新型コロナ禍で、今までのやり方の延長では医療機関経営は困難となるのは必須です。その中で今年度の事業計画を下記のように記載しました。

「令和6年度トリプル同時改定・第8次医療計画・第9期介護保険事業計画等」を見据えた地固め・基盤づくりと、「新興感染症と予測不能な変化」に迅速かつ柔軟に対応した取り組み

新型コロナ禍が3年経過し、1) 感染力が高い、2) 治療効果の高い安価な薬剤の不備、3) 高齢者や基礎疾患を抱える方が罹患した際の死亡率が高いといった課題はインフルエンザと異なり解決されないままに、2類相当から5類へ変更されます。医療機関はこれまで行ってきた新型コロナ禍対策を継続しつつ、平時の医療にも応えられるようにする大変難しい舵取りを迫られます。

一方で、肅々と2025年に向けた地域医療構想策定の政策は進んでいきます。先日、DPCデータ解析で明らかになった地域の医療機関競争状態を表す指標では鹿児島県は他県と比べても極めて競争状態が厳しい地域と位置づけられています。さらに、新型コロナ禍で日本人の医療機関に掛かる受療行動が大きく変化しています。新型コロナ禍が落ち着いてもこの受療行動は昔に戻ることはないでしょう。さらに、医療財源の厳しさから光熱水費や物価上昇を認めるからといって診療報酬の是正が簡単に行われることはないでしょう。既に大都市圏では診療報酬だけに頼った医療機関経営は不可能になっています。地方においてもその波が一気に押し寄せてきます。様々な不確定要因が一気に到来する今年度をどのような形で乗り越えるか、同時に、理念にある「全職員の物心両面の幸せを追求する」ことをどうしたら達成できるか慈愛会の“知恵”が試される1年となります。

何事も諦めずに「あすなろ精神」と「亀の一步」の慈愛会マインドで進んでいきます。

大変厳しい年度になることが予想されますが、むしろ、この危機をチャンスと捉え一層の前進を目指して努力していきます。

今年度も宜しくお願いします。

2023年度 慈愛会事業計画スタート

第3次マスタープランは Stage2 へ

公益財団法人慈愛会の経営方針を定めた「第3次中長期5カ年計画(マスタープラン)」は本年度が2カ年目となります。2023年度の幕開けにあたり、マスタープランの概要および法人内全施設の2023年度事業計画に基づく取り組み方針・抱負、並びに職能別各部門の新規／重点取り組み事項を特集します。

慈愛会第3次マスタープラン 計画テーマ

進化・深化

Evolution Deepening

5つの柱

1. 公益目的事業の遂行

- ・既存項目と新たな項目(追加)の検証・実績づくり

2. 地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築

- ・当法人の強みである(1)一般診療科と精神科の両輪、(2)高度急性期(救急)・急性期医療から在宅医療・介護・福祉まで広範囲で切れ目ないサービスの提供
- ・有事における対応力の強化(BCP〈災害・感染〉策定・実地訓練の実施)

3. まちづくり・地域共生社会の実現

- ・地域共生社会(こども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合うことができる社会)の実現を意識した、地区・域における各事業所の特性に応じた役割の獲得

- ・医療、介護福祉、地域連携の構築(医療機関〈介護福祉事業所〉～地域住民～行政機関)

4. 地域社会に貢献できる人材育成及び教育体制の充実

- ・法人内外で活躍できる人材開発と教育支援の充実
- ・慈愛会教育システム(多職種共同教育システム)の構築

5. 法人運営の健全化と財務基盤の安定化・強化

- ・慈愛会フィロソフィに基づいた法人運営
- ・予算に基づく事業収益、事業利益、償却前利益の確保に向けた進捗管理及び早期対応
- ・生産性の向上＝職員一人あたり付加価値額の向上

5カ年計画スケジュール

		診療報酬改定		診療報酬・介護保険報酬同時改定		診療報酬改定	
区 分	期 間	Stage1	Stage2	Stage3	Stage4	Stage5	
		令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	
全体ステップ		地域共生社会の実現を目指す地域包括ケアシステムにおける役割の確立					
地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築	一般	・ 外来機能報告を見据えた外来機能の分化、連携体制の構築 ・ 第 8 次医療計画「5 疾病 6 事業及び在宅医療」を見据えた高度専門医療・専門医療の機能強化、地域ニーズに応じた新サービスメニューの開発 ・ 予防医療の質向上と機能強化 ・ メディカルスタッフ協働によるチーム医療の積極的推進 など			・ 各診療科における中長期計画の再検証と専門医療の再強化 ・ 病棟、多職種間の連携強化を目的とした総合診療医の配置 ・ 専門医療、在宅・生活支援まで可能な総合診療体制の確立 など		
	障がい	・ 多様な精神疾患対応に向けた取り組み ・ 精神科救急医療体制の継続 ・ 認知症疾患医療の拡充 ・ 入院に頼らない精神医療の展開 ・ 地域生活支援機能の拡充 ・ 精神科病床の編成検討 ・ メディカルスタッフ協働によるチーム医療の積極的推進 ・ 災害発生、感染症流行時の対応力強化			・ 3 精神科病院（谷山・奄美・徳之島）における病床編成の再検討		
	在宅・介護	・ 質の高い在宅医療、在宅・介護支援機能強化に向けたソフト・ハード面の体制構築 ・ 法人内外における医療機関や介護関連施設とのネットワーク構築 ・ LIFE(科学的介護情報システム)のフィードバックデータによる介護の質と生産性の向上					
まちづくり・地域共生社会の実現	一般	・ 患者送迎体制の拡充と強化 ・ 地域医療連携室・IPFM(入退院支援センター)を中心とした医療機関や介護関連施設とのネットワークの拡張、関係性の強化 ・ 地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
	障がい	・ 行政や障害保健福祉圏域「鹿児島・奄美圏域」における関係機関との継続的な連携体制の構築、地域移行・退院支援に向けた在宅サービスの拡充、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
	在宅・介護	・ 医療機関や介護事業所、地域包括支援センター等との継続的な連携体制の構築、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
地域社会に貢献できる人材育成及び教育体制の充実		・ 法人内外で活躍できるプロフェッショナルな人材開発と教育支援の充実 ・ 慈愛会教育システム（多職種共同教育システム）の構築 ・ 全職種能力開発プログラムの推進、ミドルマネジメント研修、慈愛会学会学術集会の開催など					
共通方針		公益目的事業の遂行、職員の物心両面の幸せの追求、法人運営の健全化と財務基盤の安定化・強化、働き方改革と DX の推進、慈愛会総合情報システム（J-TIS）の安定稼働と DWH を活用したデータマネジメントの体制構築					

今村総合病院

許可病床数428床 職員数1,080人

病院目標

急性期総合病院としての機能を高めるべく、
救急体制の強化とともにチーム医療の推進を図る

中長期視点にて地域医療構想を視野に入れ、
大規模災害・感染症流行等の有事においても
「びくともしない組織」を作る

2023年度 取り組み方針・抱負

ノンテクニカルスキルの醸成にも力を注ぐ

2023年4月から今村総合病院の院長を務めさせていただきます常盤光弘です。

2022年4月から2023年3月まで、いづろ今村病院院長として1年間務めさせていただきました。今回は前任の帆北修一院長の退任にあたりまして、私が当院へ異動する形となりました。

私は2005年に当時の今村病院分院に泌尿器科医として入職いたしました。当時の宇都宮院長に推挙され2014年から副院長を拝命し慈愛会に仕えてまいりました。入職時から現在に至るまでの過程において最も印象的な出来事はもちろん現在の今村総合病院の新棟完成と病院名の変更でした。2014年から新棟のプロジェクトに加わらせていただき途中の土地取得状況の変更などで紆余曲折はありましたが2017年に無事に完工することができました。2018年には院長交代があり帆北院長の指導の下、2022年3月まで今村総合病院の副院長として継続してお仕えいたしました。帆北院長の時代には後半の3年間、日本中が新型コロナウイルス感染症に悩まされ、対応に追われました。本当に全職員の協力の下で感染症蔓延を乗り越え更なる成長を遂げた3年間だったと考えています。

さて、我々は新年度を迎え心新たにスタートを切らなければなりません。未だ感染症の影響が残る1～2年間になるのではないかと考えています。これまで蓄積したノウハウや知識を生かして、より通常に

院長 常盤 光弘



近い病院運営を心がけていかなければなりません。当院は医療機器などのハード面

において着々と整備を重ね充実した急性期病院としてその実力をつけてきました。この努力はこれからも継続して続けていかなくてはなりません。更にこれからの5年間は医療におけるテクニカルスキルに磨きをかけることは言うまでもありませんが、ノンテクニカルスキルの醸成にも力を注いでいきたいと思います。慈愛会フィロソフィに代表されるような哲学的・倫理的思考やチームワークにおけるリーダーシップの発揮、院内外に対するコミュニケーション力・発信力の獲得などが今後益々重要なスキルとなってくると感じています。これらの様々なスキルを活かして若い方々にも心理的安全性を確保し闊達な意見や提案ができる環境を作り、働き甲斐のあるいきいきとした組織を皆で作り上げていきましょう。

新年度には初期臨床研修医10名を含む100名の方々に入職していただきました。新入職の皆様を伸ばし支え育てていくことも我々の大きな使命の一つです。職員の皆様にとっては「この病院で働けて良かった」と、地域の皆様には「この病院があって良かった」と、患者様とご家族には「この病院で治療できて良かった」と言っていただける病院を皆で目指し続けていきましょう。

病院目標 「慢性疾患の患者を最期まで見る病院」
慢性期疾患を予防、急性期、回復期、維持期、終末期
全てのステージで対応できる病院

2023年度 取り組み方針・抱負

『連携強化を軸に慈愛会全体を支える柱の一つに』 をスローガンに

院長 長野 真二郎



2023年4月よりいづろ今村病院の院長職を拝命いたしました。2016年に当院は今村病院本院からいづろ今村病院に改名し、その役割を急性期医療機関から、専門的一般病棟に加え人間ドック・緩和ケア・包括ケアを含めた、いわば疾病の早期から慢性期・終末期を総合的に診る病院へと変化してきました。さらに今年度からは新たに機能強化型在宅療養支援病院(連携型)として「かごしまオハナクリニック」「高麗町クリニック」の訪問診療支援・連携を行うことで、かかりつけ医としての機能の充実を図っていく方針です。一方で急性期医療機関である今村総合病院との連携を前当院院長であった常盤統括院長の主導の下さらに強化してまいります。また、「慈愛会クリニック」「七波クリニック」の糖尿病専門クリニックや、「笹貫訪問看護ステーション愛の街」「訪問看護ステーション節愛」の訪問看護施設と診療連携をバックアップできる病院作りが求められていると感じています。また、その中で慈愛会内での医療DXを進めていくことでさらなる連携強化につながると考えます。

また、2023年3月より病棟編成を行いました。いままで15床で運用していた6階病棟を廃し、5階包括ケア病棟+5床、7階一般病棟+8床、8階緩和ケア病棟+2床として各病棟の人材・機能を充実させることとしました。

まだまだコロナ禍で職員の皆さんには多くの制限が強いられているご時世ですが、求められる役割にこたえていけるよう、職員一丸となって進んでいきたいと考えます。

病床再編(2023年3月～)

再編前	再編後
8階 緩和ケア病棟入院料1 20床	8階 緩和ケア病棟入院料1 22床
7階 急性期一般入院料4 27床	7階 急性期一般入院料4 35床
6階 急性期一般入院料4 15床	6階 (病棟を廃止)
5階 地域包括ケア病棟入院料1 23床	5階 地域包括ケア病棟入院料1 28床
4階 地域包括ケア病棟入院料1 30床	4階 地域包括ケア病棟入院料1 30床

許可病床数115床(変更なし)
一般病棟35床(-7)、地ケア病棟58床(+5)、緩和ケア病棟22床(+2)

通所リハビリテーション ウェルネスじあい

重点目標：要介護・要支援状態の利用者に満足してもらいつつ、最後まで支援する通所リハビリテーション事業所となります。

取組事項：①病院の病棟編成プロジェクトに沿った対応・対策の実施
②昨年度3月より取得を開始したLIFEの記入項目の確認、修正などの実施
③利用者アンケートを実施し、日々の支援に生かします。

数値目標：登録利用者数70名以上、
一日合計実利用者数18～22名以上



指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい

重点目標：在宅療養支援病院内の居宅介護支援事業所として、医療との連携強化により自宅内での看取りや在宅生活の継続を図ります。

取組事項：①多職種カンファレンス等に参加することで情報共有し、在宅生活継続できるよう支援していきます。
②ターミナル利用者の状態に応じた迅速なプラン作成を行います。

数値目標：登録利用者数 33名
平均利用者数 30件以上

病院目標 精神障害にも対応した「地域包括ケアシステム」への参画

2023年度 取り組み方針・抱負

地域の中で役割を果たす谷山病院

院長 福迫 剛

谷山病院は、多様な精神疾患への対応と地域共生社会への参画の方針のもと、精神科救急を通して多様な精神疾患に対応するとともに、地域包括ケアシステムの中で病院としての役割を果たしていきます。また、就労支援や相談支援などを通して、地域共生社会の実現に貢献します。

2023年度は、具体的には、①精神科救急の地域拠点病院として役割を果たし、②結核を含む身体合併症への対応を行い、③認知症への対応は認知症疾患医療センターを中心に各方面と連携して行い、④長期入院者の地域移行・地域定着を併設事業所（ひだまり、ステップ、しらゆりの郷）や訪問看護ステーションなどと連携して行い、⑤精神障害者の身体合併症に対しては、今村総合病院などの一般病院と連携して医療を提供します。⑥児童思春期の精神疾患に対しては、メディカルスタッフを中心に対応する体制を整えていきます。対応できない疾患あるいは対応が不十分な疾患に関しては、他の病院や施設などと連携を取り、患者さんが地域の中で生活できるよう支援を行います。その他、人材育成を継続して行い、災害対応も怠りなく準備していきます。

個人的には、直腸がんも術後7年を経過し、再発なく働けていることに感謝し、これまで通り精神科医療に貢献したいと思っています。

就労支援センターステップ

重点目標：①利用者の心を癒す究極の支援

②職員のモチベーションが向上し、職場全体の実行力が継続的、健康的になる環境づくり

取組事項：①1日1回優先度の高い利用者の個別支援ミーティングを実施

②迅速な支援且つ臨機応変な支援

③職員発信で、利用者から選ばれる事業所づくり

数値目標：1日平均利用者 40名（前年比130%）

月平均工賃 21,000円（前年比115%）

移行からの就職者 4名（前年比130%）



地域活動支援センター ひだまり

重点目標：地域の期待に応えられる事業所になります。

取組事項：①障害者相談支援事業及び地域活動支援センター事業の支援体制及び事業内容の充実

②行政その他関係機関との連携による支援体制の強化

③事務的業務の効率化

数値目標：①地域活動支援センター事業 20件/日

②指定特定相談支援事業 110件/月

加算40件/月

③指定一般相談支援事業 3件/月

④自立生活援助事業 4件/月



グループホームしらゆりの郷

重点目標：①個々のニーズに応じた適切な支援を行い中間施設としての役割を果たします。

②安心・安全な生活環境を提供します。

取組事項：①多様なニーズに対応できる事業所体制の強化

②入退きの連動したマネジメント

③関係機関・部署との連携

数値目標：平均利用者数 29名以上

利用率 90%以上

サテライト型住居 3件以上

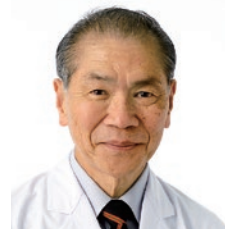


病院目標 奄美大島における「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」への貢献

2023年度 取り組み方針・抱負

チーム奄美で精神科版地域包括ケア体制構築を

管理者 納 光弘



本年度は慈愛会の第3次中長期5カ年計画（マスタープラン）の2年目に当たります。初年度に芽吹いた種を大切に育み、確かなものとする重要な時期であることは言うまでもありません。県内各地に根を張る地域医療機関の強みを生かし、現場スタッフ一人一人が「進化・深化」していくことが求められます。

奄美病院グループも「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムへの貢献」を目標に掲げ、人材育成や地域貢献活動など4本柱の事業計画を設定いたしました。グループホームと障害者用賃貸住宅を備えた複合施設を整備するほか、老朽化した保育園施設を移転し、働きやすい職場環境づくりも目指します。

奄美群島は今年、日本復帰70周年を迎えます。奄美は昭和28年までの8年間、米軍政下に置かれ、本土渡航が禁止されるなど苦難の日々を送りました。私どもも無血の民族運動で復帰を勝ち取った先人たちの努力を胸に刻み、「チーム奄美」の志を持って医療連携体制の構築を目指して参りたいと考えております。

指定障害福祉サービス事業所あらいぐま

- 重点目標：**新規登録者の積極的な受け入れ態勢の拡充
- 取組事項：**利用者の誰もが元気になる場を目指します。
「安心」「つながり」「自信」「やりがい」
- 数値目標：**一日平均利用者数44名



訪問看護ステーションイルカ

- 重点目標：**訪問看護利用者が、地域や自宅で心身ともに安心して暮らせるように、家族や関係機関と連携し自立に向けて支援します。
- 取組事項：**①関係機関と連携し新規利用者の獲得に努めます。
②各訪問スタッフが1人月間訪問件数を85件～95件を維持していきます。
③喜界島を含めて奄美北部でのサテライトステーションを検討していきます。
- 数値目標：**月平均利用者数 210名以上
月平均訪問件数 800件



指定特定相談支援事業所あゆみ

- 重点目標：**地域に必要な事業所として、信頼のおける相談窓口となれるよう努めます。
- 取組事項：**①利用者のその人らしい生活を支援します。
②支援体制の整備とサービス提供の質の向上に努めます。
③働き方改革を推進し、スタッフの必要定数確保や働きがいのある職場環境の構築に努めます。
- 数値目標：**計画相談件数120件/月、契約者数230件（利用者数合計）



グループホームひまわり

- 重点目標：**利用者が社会生活を営む上での適切な支援
- 取組事項：**①入居者に寄り添う支援を行うための質の向上
②奄美病院グループ後方支援としての役割
- 数値目標：**入居率80%の維持



病院目標 「南三島」を支える精神科病院として、 病院体制の再構築と強化

2023年度 取り組み方針・抱負

今こそ慈愛会の底力が試される時

院長 末満 純一

皆さんこんにちは。昨年の8月には徳之島病院においてもコロナの集団感染がありスタッフの少ないなか夜勤、夜勤、夜勤の連続で看護師さん達も疲弊してしまいました。特に精神科は閉鎖環境にあり、身体疾患に関しても病識のない患者さんが大半で瞬く間に感染が拡大してしまいました。あの時を教訓に持ち込まない事に重点をおいています。

昨年の4月には一つの病棟を休床とし、120床でやっています。これを支える看護師は僅か20数名です。当然、看護基準を落とさざるを得なくなりました。島の人口減少から、患者数・看護師数の減少も理解はできますが、この看護師不足では島に精神科病院をつくった意味が薄れ、病院として維持することが難しくなってきます。

また昨年から計画していた「就労継続支援事業所」建設や「訪問看護ステーション」の立ち上げも頓挫した状態です。そのためにも看護師の確保が最優先です。また沖永良部島、与論島への訪問看護継続も地域からは望まれており、そこにも看護師が必要です。

精神科においては看護師さんの力が一番です。今こそ慈愛会の底力が試される時だと思います。ファイト一発！



グループホームうんばた

重点目標：グループホーム入居者の地域移行への促進、自立に向けての個別支援

- 取組事項：**
- ①入退所後のきめ細やかな総合的な支援（訪問看護の利用促進、デイケア活動への参加、就労施設等への働き方支援）
 - ②入居者の健康管理やホーム内外での事故防止対策の取り組み（看護師配置、緊急連絡時の24時間対応（ナースコールでの夜間対応を含む））
 - ③日常生活における生活支援（料理、買物、身の回りのお世話）
 - ④社会復帰促進の取り組み（院内外における障害者雇用施設への働きかけ）

数値目標：利用率 91.7%



徳之島病院 Topics

臨床実習指導施設認定



2023年3月15日、日本作業療法士協会より『臨床実習指導施設』の認定を受けました。

当院は、長年にわたり複数の作業療法士養成校から作業療法学生を受け入れを行っています。しかし、実習生からの就職希望はここ数年途絶えており、何かきっかけが欲しいと感じていました。そんな折、日本作業療法士協会のホームページに『臨床実習指導施設』の認定制度を見つけ「これだ!!」と思い、申請する運びとなりました。

これまでも臨床実習は、作業療法室だけではなく、他部署・多職種の協力の上に成り立っていました。言わば、『結いの心』で実施していました。これを機に、より良い職場環境、より良い後輩の育成、より良い地域貢献活動を促進していきたいと思ひます。

作業療法士 古田 真悟

広報プロジェクトチーム結成！

集まれくじら病院へ

徳之島病院のPRに力を入れよう、という熱い想いを共有する病院スタッフ有志で「広報プロジェクトチーム」を立ち上げました。取り組み第一弾として、病院ウェブサイトのトップページデザインを一新！



冬場、南下するクジラをスタッフ・患者さんと共に院内から眺められることから、身近なクジラをモチーフにしました。キャッチコピーは「太平洋に浮かぶ、くじら病院」。オーシャンビューの病棟のドローン撮影、病院の夜景も組み合わせました。働く仲間をもっと増やしたい思いを込めて「集まれくじら病院へ」の新ページも設け、島の魅力、徳之島病院での働きがいなど、これから積極的に情報発信していく計画です。

作業療法士 真喜志 元希



目標 「人生100年時代の地域包括ケアの街創り」 愛され信頼される老健施設を目指す

2023年度 取り組み方針・抱負

谷山地区における「超強化型老健」としての 存在意義を示したい（その6）

施設長 野村 秀洋



残念ながらコロナ感染が継続したために、昨年度も計画していた取り組みがほとんど実施できない状況となりました。

今年度は昨年に引き続き第3次マスタープランに掲げました「人生100年時代」「2040年問題」を見据え「超強化型老健」愛と結の街、並びにグループ併設事業所それぞれが役割を発揮し、地域と共に歩むことができる組織の確立に向け、計画を進めて参ります。

今年度の重点戦略テーマといたしまして

1. 施設サービス(入所)機能の充実・強化

- (1) 医療ニーズの高い施設入所者への対応強化(慈愛会内施設との連携強化)
- (2) 在宅支援の強化(退所前後訪問指導・訪問リハビリ等)

2. 選ばれる通所サービス(通所リハ・通所介護)の仕組み作り

- (1) 強みを出せる通所サービスの構築・提供
- (2) 顔の見える関係構築による利用者の安定的確保

3. 地域に頼られる居宅サービス提供体制の構築

- (1) 地域への訪問診療体制構築に向けた検討・実施
- (2) 地域の病院・施設との連携強化
- (3) 訪問介護サービスの提供、訪問給食・ふれあい会食の継続

これらの取り組みを今年度の計画の柱とし、愛と結の街グループが谷山地区における地域包括ケアシステムの拠点としての役割を果たすべく職員一丸となって邁進して参ります。

指定居宅介護支援センター愛と結の街

重点目標：本人の意思を尊重し自立性を向上させる望む在宅生活が継続できるように医療・介護の必要なサービス提供のケアマネジメントを実践していきます。

取組事項：①ご利用者の選択に基づき、必要な保健医療サービス及び福祉サービスが総合的かつ効率的に提供されるようサービス調整していきます。
②ACPIについて考える機会づくり、日頃からの関わり、会話から本人の思いを引き出し、価値観や意思決定を確認し最善を考え支援していきます。

数値目標：介護保険サービス利用者数 140件/月
加算取得等 70%以上



ヘルパーステーション結の街

重点目標：住み慣れた場所でできることを続けながら安心して生活できる暮らしを一緒に考え、継続した支援を提供します。

取組事項：①グループ内外の多職種と協働しニーズに合わせた提案。
②ケアの質を向上させ多様なニーズに対応できるスタッフの育成。
③事務作業の効率化を更に推進。

数値目標：①訪問件数900件以上（総数）
うち、身体介護：200件以上
身体生活：60件以上
②毎月新規利用者2名以上の獲得



愛と結の街グループ

デイサービスセンターあしたの風

重点目標：愛と結の街グループや谷山病院・地域と連携し、利用者や家族が自宅で安心した生活を継続できるように支援していきます。

取組事項：①多職種協働で認知症の専門性を高め、利用者のBPSDの緩和や心身機能の維持を図ります。
②認知症や介護の困り事相談や専門的アドバイスを行い、家族の介護負担の軽減を図ります。
③地域活動を再開し、地域住民への認知症の理解を深めていきます。

数値目標：利用率 70%
新規利用者 15名



グループホーム愛と結の街

重点目標：住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛と結の街グループ・地域の事業所と連携を図り、安心・安全に過ごせるように支援します。

取組事項：①他職種と連携を図り状況に応じた介護サービスを提供します。
②1日でも長くグループホームで生活できるように予防的視点で支援します。
③LIFEを活用し、ケアの質の向上に取り組んでいきます。

数値目標：利用率98.0%



デイサービスはなぶさ

重点目標：地域や関連事業所と密な連携を図り、幅広いニーズに対応。利用者が生き甲斐を持って在宅で生活し続けられるように支援します。

取組事項：①通所リハビリ、老健、有料老人ホーム、訪問系サービス等と連携を図り、より利用者の状態に合わせた適切なケアが提供できるように支援体制を強化します。
②住み慣れた地域で少しでも長く生き甲斐や役割を持って日常生活が過ごせるように支援していきます。
③科学的介護の実践に対応できる人材育成を行います。

数値目標：平均利用率 60%以上
他支援事業所割合 40%以上
利用登録者数 60名以上



住宅型有料老人ホーム あいゆいの家

重点目標：入居者が快適で心身ともに充実した生活を営むことができるように、良好な生活環境を保持し生活支援を行います。

取組事項：①関係事業所等と密に連携を図り、入居者が自宅と同様に快適な生活ができるように適切な環境を構築します。
②生活機能の拡大や生き甲斐のある生活が送れるように支援体制を強化していきます。

数値目標：入居率 80%以上
入居者数 年間平均8名以上



慈愛会在宅支援部

職員数(笹貫訪問看護ステーション愛の街) 19人

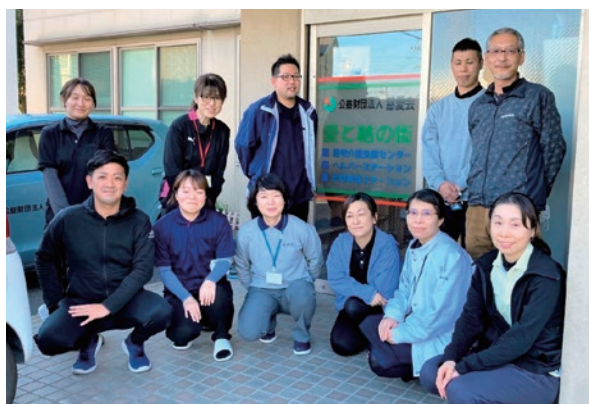
2023年度 取り組み方針・抱負

2年目の飛躍 ～育てはぐくむ年～

在宅支援部長 中藺 明子



在宅支援部として2年目になります。1年目は無我夢中でしたが、2年目となると少し視野が広がり、今まで見えなかったものが見えるようになるのではないのでしょうか。視線を高く持ち、数値目標や看護の質などデータ管理にも力を入れ、経営の見える化を行うことも考えています。引き続き人材育成と訪問看護の質の向上を図っていききたいと思います。人材育成においては、特定看護師の育成により、専門性の高い看護を提供できることが「強み」となり、「心もからだも看れる」訪問看護ステーションにしていきたいと思います。又、令和6年度新卒訪問看護師の受け入れ体制も進めながら、「育てはぐくむ年」としてこの一年取り組みたいと思います。



笹貫訪問看護ステーション愛の街

重点目標：心に届く慈愛の看護をモットーとし、地域で必要とされる事業所を目指します。

取組事項：①法人内や地域での円滑な連携の強化。
②各専門職種の力を発揮できるように、生産性の向上を目指します。
③サテライトを活用し、エリア拡大に努めます。
④多様な健康障害の利用者に対応できる人材育成。
⑤やりがいのある職場風土をつくります。

数値目標：①利用者数300名
②年間12,000件（月間件数1,000件）
一般：5,000件 精神科：7,000件

鹿児島中央看護専門学校

定員 3年課程看護科40人
職員数 18人 校長 今村 英仁

2023年度 取り組み方針・抱負

慈しみの心を持ち、自分の力で看護を 創造・発展させていける看護人材の育成 ～看護の本質を考え、学生の心を育てる教育を～

副校長 久徳 美鈴



少子化の中、看護学校運営は、厳しさを増してきています。看護師を目指す学生に本校を選んで頂けるように、そして地域・社会に貢献できる看護師を育成するために、本年度も引き続き、第3次マスタープランに掲げた3つの重点目標に取り組んでいきます。

教育活動においては、新カリで目指す8つのディプロマポリシーを到達できるよう、本校の教育に携わる関係者の方々と連携・協働し、学生の主体的・能動的学習を支援していきます。特に、本校が目指す慈しみの心をもった人間性豊かな看護師を育成するために学生の心を育む教育活動を深化させていくことが重要と考えています。

また、放送大学での学士資格取得支援の継続、シミュレーション教育、ICTを活用する教育等本校の強みを活かした教育の継続、さらに、学校移転に向け検討会を継続していきます。

本年度はようやくコロナ禍から脱し、学校も日常を取り戻しつつあります。行事等を通した学年交流や鹿児島国体参加など地域に根ざした活動に取り組んでいきます。

慈愛会クリニック

職員数 15人

患者様とともに新しいステージへ

院長 今村 尚子



今年度の目標は、コロナウイルス感染症も収まりつつあるとはいえ、患者延数を月880名、糖尿病患者で月800人と前年度より若干低く設定しました。

これまで患者の行動を大きく変えたコロナウイルス感染症は5月から5類感染症に引き下げられます。今年は、国の政策面でもオンライン資格確認の義務化や電子処方箋の導入など、医療従事者も患者も互いに新たな取り組みに順応していくことが必要です。

どこまでコロナ禍以前の状態に戻れるのか、現場は注視していくことになってますが、今まで以上に感染予防対策を遵守し、控えていた活動をどれだけ再開できるかが課題です。

コロナ禍で受診を控えぎみの患者様に改めて受診の大切さと血糖コントロールの重要性を分かっているように、患者に寄り添うことを一番に、充実した教育と指導で受診者数増加につながればいいと思います。

七波クリニック

職員数 22人

新年度へ向けて

院長 鮫島 久子



当院は糖尿病内科として診察前に栄養士を含め看護師による問診、療養指導、症例によっては足観察や簡易処置を行い、医師診察の流れで診察を行っています。今年度はCDE3名に増え、療養指導が充実したものになりそうです。医師の体制は常勤1名、非常勤5名ですべて糖尿病専門医です。糖尿病治療薬は新薬が増え、自己血糖測定器も新製品が増えています。スタッフの協力とともに血糖コントロール指導や新しい治療、合併症治療を行いたいと思います。また、今年度は日本糖尿病協会等の患者会など制約下ですが再開有ります。当院も参加を再開していこうと思っています。

高麗町クリニック

職員数 12人

病診連携で在宅医療を支援する 一翼を担う

院長 木原 浩一



2022年7月に斧淵院長から業務を引き継ぎ、昨年度は慈愛会の中で病診連携を図るための基盤を強化して参りました。2023年度は水曜日にも訪問診療を開始し、これまでカバーしきれなかった地域の患者の皆様をお引き受けしたいと考えています。現在70-80名で推移している訪問診療契約数を100名に引き上げたいと考えています。訪問リハビリテーションは30名前後でコンスタントに継続したいと思います。

高齢の患者の皆様は通院が困難ですが、往診・訪問診療を実施することで診療機会を増やすことが可能となり、病態変化の早期発見に繋がります。病診連携を図ることで精密検査や入院加療も出来ることが、慈愛会グループの大きなアドバンテージであると思いますので、当院もその一翼を積極的に担って参りたいと存じます。

かごしまオハナクリニック

職員数 12人

無理をしない業務体制づくりと、 「慈愛会の在宅医療」着手の1年に

院長 林 恒存



900名余のかかりつけ定期外来と、170名余の在宅患者の月平均訪問診療を320件行い、在宅患者は24時間365日緊急コール往診体制を維持しています。訪問診療の需要増加は当面続きそうです。かかりつけ、在宅医療いずれにも不可欠な要素は「継続性」ですが、常勤医2名だけで1100名のかかりつけ医として質を担保して責任を果たすにも限界があり、特にマンパワーの必要な在宅需要に応えるには、今後は慈愛会全体で在宅医療を担う視点が必要と考えます。「無理をする」業務は、スタッフの心身不調と意欲低下を来し、結果的に業務の質の低下やエラーの根源ともなって長続きしないのは明白です。

したがって2023年度は、数値目標を達成することよりも、①業務効率や生産性を高める業務整理②業務の標準化と質の向上③権限や役割の移譲・分担・協働の推進④人材発掘と育成、の1年にしたいと考えています。

慈愛会 職能部門別 事業計画

今年のトピック

—— 新規の取り組み、重点的に取り組む事項をピックアップ ——

看護部支援室

訪問看護ステーション新卒看護師採用に向けた教育プログラム作成および採用準備（新規）

鹿児島県委託訪問看護供給体制確保推進事業に参画します。2024 年度 4 月に慈愛会において笹貫訪問看護ステーション愛の街及び奄美病院訪問看護ステーションイルカに新卒者看護師を採用予定です。臨床経験のない新卒者の受け入れと育成には法人内の連携協力が必須です。入職後 3 年間の教育プログラムを作成し、慈愛会全体で共有し支援していきます。

慈愛会共通連携シート作成および活用による連携推進（新規）

慈愛会連携推進委員会は隔月に委員会を開催し連携に係る協議を行っています。今年度は慈愛会各施設で様々な様式を使用しているシートの見直しを行い、共通のシートを作成し連携における業務の効率化及び患者・ご家族の情報が適切に速やかに伝達され切れ目ない連携による安心感につなげていきたいと思ひます。

ACP（アドバンスケアプランニング）について連携シートの中で大切な情報として患者の意思をしっかりと伝えつなげていきます。

職場風土調査 5 か年評価と職場風土改善への取り組み、離職率減少（重点）

働き方改革や業務改善に取り組み、各施設で離職率低下に向けて取り組んでいますが大幅な改善に至っておりません。各施設年 1～2 回の職場風土調査結果 5 年分を分析し、新たな方策へ繋げていきたいと考えます。慈愛会看護部全体で取り組み、少しでも職場環境改善と離職率減少へ貢献していきます。

リハビリテーション部

地域サポート事業（新規）

総合スポーツ PT の鹿児島国体トレーナー活動と総合 ST の地域他施設スタッフへの嚆下評価指導を計画・開始しています。本事業は、能力の高いスタッフにとって、持てる力を発揮し更なる能力向上に繋がるキャリアアップのチャンスとなります。また、地域住民・地域医療施設においての慈愛会リハのイメージアップに繋がると考えています。

慈愛会リハ部連携強化（重点）

リハ活動発表会のテーマを 2022 年「多職種連携」2023 年「施設間連携」2024 年「地域連携」とし、「連携」の効果を生かすリハ治療の報告を継続していきます。身障リハ会議（いづろ・総合・愛結・高麗町クリニック）・精神科リハ会議（谷山・奄美・徳之島）ではマスタープランに沿って討議・議事録を共有し、慈愛会リハ部全体で同じ方向を向き事業を展開していきます。

DX 活用《患者獲得・人財確保・教育》（重点）

患者獲得：県民に対し、HP・YouTube で障害予防情報・治療効果実績・学会発表実績・研修報告・優秀なスタッフ紹介等々を発信していきます。

人財確保：HP・YouTube・Instagram・地域コミュニティ誌で募集掲載、働きがいのある職場のイメージを発信していきます。

教育：YouTube の慈愛会リハ部限定公開の形式で、各施設が専門分野の立場で動画配信し、慈愛会リハ部全体でともに学習を進めていきます。

画像診断部

慈愛会画像診断部連携体制強化（重点）

一体化会議を毎月開催し、業務内容・問題等を共有し改善、効率化を図ります。谷山病院を含めた相互助勤体制を強化し、災害、感染症流行など有事の際にも業務に支障をきたさない体制を整えていきます。

地域連携強化（重点）

地域医療連携システム C@RNA Connect（カルナコネクト）の連携施設増加を図り、施設モダリティを利用してもらうことにより、開業医の法人への満足度向上を図り、慈愛会ファン獲得へつなげます。

人財育成（重点）

告示研修受講・資格取得等を推進し、チーム医療・タスクシフティングへ貢献できる人財、また積極的に県市地域行事への参加、講師派遣を行い地域から求められる人財を育成していきます。

薬剤部

地域調剤薬局との在宅ケアの連携（新規）

広域調剤薬局グループとの連携を図り、今年度開始予定の電子処方箋の対応状況や地域調剤薬局を利用している慈愛会患者さまへのシームレスな情報共有や退院後の地域調剤薬局との更なる連携を構築します。また、地域調剤薬局薬剤師の外来がん治療認定薬剤師の育成を行います。

人財育成《クリニカルラダーの活用》（重点）

薬剤師の能力開発プログラムクリニカルラダー・レベルを参考に達成度評価に応じたスペシャリスト、ジェネラリストの育成のため、レベルに応じた専門・認定薬剤師のカリキュラムへのチャレンジを行います。

薬剤師の働く環境づくり（重点）

法人5病院における薬剤師の年齢構成や男女比を鑑みると今後も薬剤師の人財確保は最重要項目です。今後も法人内で薬剤師の交流を深め適材適所の勤務選択を行い、またライフイベントを迎えるスタッフの環境を整備して離職率10%以下を目指していきます。

臨床検査部

慈愛会臨床検査部法人内人事交流《連携強化》（重点）

慈愛会臨床検査部一体化にむけた今村総合病院といづろ今村病院の人事交流を行います。検体・生理検査ともに、検査機器・検査試薬・検査システムの統一を進め、検査手順などの統一化も検討、実施していきます。

輸血検査システムの導入と更新（新規）

今村総合病院では2023年1月I&A更新受審後に、輸血検査新システム導入と検査機器更新で、適正な輸血検査の維持に努めます。いづろ今村病院では新たに輸血検査システムを導入します。適正で安全な輸血検査業務のために病院間連携を行います。

タスク・シフトシェアに関する講習会受講と多職種連携（重点）

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会の受講を進めます。業務範囲の見直しを行い、多職種連携で新規検査業務の検討を行います。

慈愛会総合情報システム（J-TIS）

J-TIS 基盤の更新（新規）

J-TIS ハードウェア基盤の更新に伴い、クラウドサービスやホスティングサービスの利用を検討し、クラウド+オンプレミスの『ハイブリッドクラウド』への移行を推進します。

電子カルテシステムの更新に向けた検討（重点）

現在稼働している電子カルテ・オーダーリングシステム・医事会計システムの更新に向けて、現在のシステムにおける問題点や強化したい機能について情報を収集し、システム更新の検討を行います。

慈愛会ネットワークの強化（重点）

VPN ワイド網のレスポンス品質改善に向けて、VPN 網の見直し、ネットワーク機器の更新など、セキュリティを含めたネットワークの強化を行います。

医療福祉相談部

慈愛会ソーシャルワーカー活動報告会（新規）

社会福祉士・精神保健福祉士が、各自または部署内で取り組んでいる活動内容をまとめ報告することで、実践の振り返りを行うとともに、慈愛会学会学術集会や学会発表への足掛かりとしていきます。

職員能力開発プログラムの活用（重点）

『保健・医療・福祉の視点を持ち、社会貢献できるソーシャルワーカーを育成』するという教育理念のもと、医療福祉相談部の能力開発プログラム、キャリア開発ラダーを有効的に活用し、知識の共有と人財育成に努めていきます。

栄養管理部

調理師の連携《情報共有から》（新規）

慈愛会における給食運営維持のためには、栄養士のみならず調理スタッフの連携も大事です。調理師の立場から、各施設の状況や取り組みについて情報共有を進め、課題・意識を統一して連携を深め、改善に向けて検討する体制を整えていきます。

栄養マネジメントの機能強化（重点）

急性期から在宅・地域まで、途切れのない栄養マネジメントを行うために、疾患や食事形態など栄養に関する知識を深め、実践していく必要があります。院内外での研修および管理栄養士の連携を深め、全体がレベルアップできるよう取り組んでいきます。

施設管理課

省エネ設備の検討及び導入（新規）

機器の経年劣化等による更新の際、省エネ設備を検討し、併せて省エネルギー設備への更新を促進するための補助金を活用します。また、省エネ診断（専門家によるエネルギー使用の実態把握や運用改善のアドバイスをする事業）を受診し、コスト削減にもつながる設備の運用改善や省エネ設備導入についての情報収集等を行い更新に備え準備します。

省エネ法に伴う定期報告、目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均1%以上削減の努力）の達成に向けての体制再構築（重点）

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）により慈愛会全施設のエネルギー使用量等を年1回報告する義務があります。報告の目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均1%以上削減の努力）の達成に向けて、現状に合う機器管理標準の見直しを各施設が行い、施設管理課会議（月1回）により検討し運用します。

スタッフのレベルアップ（重点）

コロナ禍の影響等により講習を実施できなかったが本年度は電気基礎講習（講師：九州電気保安協会）内容の充実を図り今後、第2種電気工事士、第1種電気工事士、第3種電気主任技術者等の資格取得に備えます。

総務人事部

ドクターパフォーマンスレビュー（重点）

今村総合病院・いづろ今村病院において導入したドクターパフォーマンスレビュー。病院機能・病床規模の変化から原価計算体制の再構築を実施します。2024年度に向けて医師の給与制度の見直し（行動評価・目標達成度評価の連動、病院業績・病棟別・科別業績の反映）を実施します。

管理会計（重点）

昨年度に引き続き、最終キャッシュフロー（C/F）残高を事業所ごとの目標とする管理会計とし、将来の建物設備投資準備資金としてのC/Fの蓄積（全体で3億2,800万円）を加味した予算となっております。

なお、夏季・冬季賞与支給率は貯蓄目標額の達成状況により決定されます。

人事制度の見直し（新規）

職員給与（医師を除く）について物価高騰、昨今の賃上げの流れを踏まえ、給与相場の低い職種の水準引上げ及びベースアップを実施します。2024年度に向けて業績を反映できる新賃金制度の検討、処遇を反映する要素の検討（昇給や賞与の判断軸となる評価制度の見直し）を実施します。

教育開発センター

慈愛会フィロソフィバージョンアップ（重点）

慈愛会フィロソフィは2015年に作成され、慈愛会入職時、一人ひとりに配布し活用しています。2024年に慈愛会創立90周年を迎えるにあたり、バージョンアッププロジェクトを立ち上げ、メンバーを各施設から募り、内容及び職員に周知活性化する方法を検討し更に進化・深化したものとします。

全職種で取り組む心に届く慈愛の物語を紡ぐ会（重点）

2020年に始まったこの会も今年度で4回開催となり、昨年度から多職種合同で開催しています。今年度「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」運営委員会を立ち上げ、各施設多職種から広くエピソードを募集しました。多くの職員の参加により慈愛の物語を共有し、全職員全職種で慈愛会が大切に育む慈愛の心をつないでいきます。

慈愛会クリティカルパス整備と活用（重点）

慈愛会においては各施設クリティカルパスを活用し医療の標準化を図っています。各施設のクリティカルパス作成状況や活用状況を把握し、DX化が今後進む中、慈愛会クリティカルパスを活用するための方策を考えます。

小線源療法の開始について

今村総合病院 泌尿器科 顧問 中川 昌之



●特徴

国立がん研究センターの最新の統計によると、日本人男性で最も多いがんが前立腺がんです。当院ではこのたび前立腺がんに対する放射線療法（内部照射）である密封小線源療法（以下、小線源療法）を2022年12月より開始しました。小線源療法とは4.5x0.8mmの小さな線源（放射性物質）を前立腺組織内に50～80個ほど留置し前立腺がんを根治させるものです。小線源療法には放射線の強さにより低線量率組織内照射と高線量率組織内照射の2種類があり、前者ではヨウ素125、後者ではイリジウム192を用います。当院で実施しているのはヨウ素125による低線量率組織内照射になります。この治療法にはいくつかの長所があります。まず治療による身体的負担が小さく入院期間が3泊4日で済むこと、次に手術療法で問題となる尿失禁や性機能障害がおこりにくくQOLが保てること、そして治療成績が良いことです。もちろん健康保険が適用されます。

●対象となる患者

低リスクから中間リスクの前立腺がん患者が対象です。具体的には転移のない患者で、PSA値が20ng/ml未満で、グリーンスコア（悪性度）が7点以下、がん病変が前立腺内に限局している患者が対象となります。

●治療の手順

あらかじめ前立腺生検で得られた情報をもとに、患者ごとの前立腺がんの局在を確認し、どこに線源を配置すると有効かつ十分な照射ができるかの線量分布をコンピューターで計算します。そのデータに基づいて、小線源を前立腺組織内に留置していきます。治療は腰椎麻酔下で行い所用時間は2時間ほどです。当院では原則、水曜入院、木曜治療、土曜退院の3泊4日入院の流れとなっています。また、前立腺肥大症が合併し前立腺が大きい場合は、恥骨干渉が起これ線源挿入が困難な場合があります。その場合は、治療前に3か月から6か月間ホルモン療法をして前立腺を小さくしてから小線源療法に臨みます。

●治療成績

当科の担当医グループが鹿児島大学病院で経験した541名の患者（2006年6月～2019年1月）において、5年PSA非再発生存率（5年間再発なく生存できる確率）は低リスク前立腺がん患者で98.5%、中間リスク前立腺がん患者で96.9%と良好です。

●合併症

放射線治療ですので、前立腺に隣接する膀胱や直腸にもわずかながら放射線が当たる可能性があります。したがって、放射線による膀胱炎（頻尿、排尿痛、血尿）や直腸炎（頻便感、血便）や排尿困難が起こる場合があります。排尿困難に対しては尿道拡張作用のあるα1-blockerを用いると徐々に軽快していきます。一方、頻度は少ないのですが、血便が出た場合はまずは泌尿器科医に相談していただく必要があります。というのも血便の原因として、放射線性直腸炎が直腸自体に起因するがんなどの病変によるものかの鑑別が困難だからです。小線源療法後の血便でいきなり消化器内科や肛門外科にいくと、精査目的で生検が行われることがあります。もし放射線療法後の直腸粘膜を生検すると、同部の治癒は非常に不良であるため難治性潰瘍や尿道直腸瘻ができ、最悪の場合は人工肛門を造設する必要があります。そのようなトラブルを避けるため、泌尿器科では小線源療法を受けた患者さんには全員、注意事項を記載した患者カードを配布しています。

●術後のフォロー

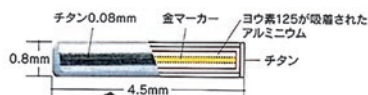
治療後は定期的に泌尿器科外来に通院していただき、PSA値の推移や合併症の有無を確認いたします。

●最後に

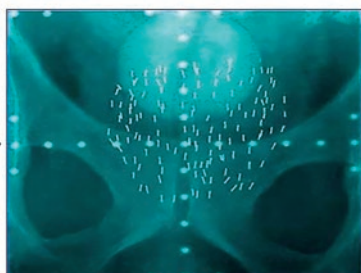
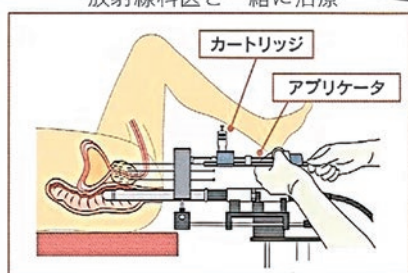
前立腺がんに対する小線源療法について概略を述べましたが、前立腺がんには小線源療法以外にもロボット支援手術、放射線治療（外部照射）、ホルモン療法という多くの治療選択肢があり、患者さんの要望に応じて治療法を選択することが可能となっています。大事なことはPSAという腫瘍マーカーを有効に活用し早期発見・早期治療を普及させることだと考えています。



- 半減期 約60日
- 腫瘍制御可能範囲は線源から2～5mm
前立腺内に50～80個を挿入
- 周囲臓器への被曝量が非常に少なく、合併症は稀



放射線科医と一緒に治療



今村総合病院での治療風景

かごしま慈愛会ジャーナル編集委員会より

16編収載の第2巻 4月30日発行

かごしま慈愛会ジャーナル第2巻を4月30日に発行します。本誌には、第2回慈愛会学会学術集会で表彰された演題を含む全16編の論文を掲載しております。

また、第2回慈愛会学会学術集會大会長の宇都宮與先生と、日本医療マネジメント学会第20回九州・山口連合大会会長の帆北修一先生から、学会開催報告についてご寄稿いただきました。

トピックスでは、今村総合病院吉森みゆき副看護部長より「新型コロナウイルス感染症に対する取り組み」、今村総合病院看護師特定行為研修センター上山テルヨ主任より「今村総合病院看護師特定行為研修センターの役割と課題」をご寄稿いただいております。

掲載論文数も増え、創刊号から更に充実した内容となりました。発行後、施設・部署宛てにお届けします。ぜひ一読ください。



慈愛会学会運営委員会より

第3回学術集會 69演題がエントリー

第3回慈愛会学会学術集會を、2023年7月1日(土)鹿児島県市町村自治会館にて開催します。

今回は、69演題(口演発表23、ポスター発表46)の発表を予定しています。多数の演題登録ありがとうございました。

学術集會プログラムでは、特別講演並びに大会テーマ「地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築」に基づいたパネルディスカッションを企画中です。近日中に、学術集會参加者募集の案内を周知します。多くの皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。



心に届く慈愛の物語を紡ぐ会運営委員会より

応募総数100編から入選15編が決定！

第4回「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」にぜひお越しください

令和2年に看護部を対象として始まった「心に届く慈愛の看護を語る会」は、第3回から多職種を対象とした「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」として開催しております。令和4年度には、心に届く慈愛の物語を紡ぐ会運営委員会が発足し、慈愛会全体の取り組みとして新たな一歩を踏み出しました。

今年度、第4回「心に届く慈愛の物語を紡ぐ会」を2023年5月20日(土)かごしま県民交流センター県民ホールにおいて開催します。

エピソード募集には、多施設・多職種より100作品のエピソードが寄せられました。職員の皆さんと患者様・ご利用者やそのご家族との日々の関わりや、日常業務や生活の中での慈愛の物語が綴られています。多数のご応募ありがとうございました。

選考委員による1次選考と2次選考を経て、4月7日選考会にて入選15作品を決定しました。

入選された作品と作者をご紹介します。入選された皆さんおめでとうございます。



忘れられない出会い～風が強く吹いている～	いづろ今村病院 薬剤師	東條 知子
娘の心に響いた慈愛の心	今村総合病院 看護師	松山 郁子
三十年ぶりの再会～ずっと会いたかった～	徳之島病院 看護師	白山あいみ
彼女からの贈り物	いづろ今村病院 診療放射線技師	脇田 慎一
紡ぎ紡がれていく想い		
～これまで出会った全ての皆さまへ、ありがとう～	奄美病院 精神保健福祉士	林 亜紀子
文字で届いた慈愛の心	法人事業本部 事務員	坂元 友美
優しい足音	法人事業本部 看護師	池田貴美子
何気ない日々の関わりに「看護」のヒントはある		
～相手を想うお節介から生まれた感謝～	鹿児島中央看護専門学校 看護学生	上原 萌莉
「あなたは10秒さん」	今村総合病院 看護師	柳田 美結
「ダメ人間のままだでは終わりたいです」		
～短冊から見えてくるA氏の熱い思い～	グループホーム愛と結の街 介護福祉士	福満 貴幸
「Aさんが教えてくれたこと」	谷山病院 看護師	川野 紀子
食べることは生きること	谷山病院 管理栄養士	四本 悠佳
心の変化～ある日直時でのかかわり～	グループホームしらゆりの郷 精神保健福祉士	遠矢 ふみ
「貴方は仕事をしていますか？作業をしていますか？」	徳之島病院 施設管理係	内田千恵美
「まな丸」に乗っていく	法人事業本部 看護師	池田貴美子

15作品の中から最優秀1作品、優秀2作品が選ばれ、5月20日心に届く慈愛の物語を紡ぐ会の会場において、選考委員長の三角みづ紀先生(詩人、鹿児島市出身)より発表されます。

心に届く慈愛の物語を紡ぐ会では、入選作品の朗読、三角先生の選評、表彰式を行います。

慈愛会スタッフの皆さんのご来場を心よりお待ちしております。

18期生52名が学び舎を後に…

鹿児島中央看護専門学校

去る3月3日、鹿児島中央看護専門学校令和4年度卒業式が挙行されました。今年度卒業したのは第18期生52名です。当日は晴天にも恵まれ、ご来賓の方々やご家族の皆様、在校生、教職員に祝福された心あたたまる式になりました。

新型コロナウイルスの影響により、たくさんの制約がある中で過ごした3年間、学生たちは色々な思いを抱えながらも、自分たちなりに講義や実習、国家試験を乗り越えてきました。

入学してから卒業まで、クラス活動や掃除についても普段からきちんとこなしてきた18期生。これからの活躍が本当に楽しみです。



「鹿児島マラソン2023」をサポート

今村総合病院・いづろ今村病院

2023年3月5日(日)、4年ぶりに開催された「鹿児島マラソン2023」に、慈愛会からも今村総合病院といづろ今村病院の医師・看護師が救護スタッフとして参加しました。

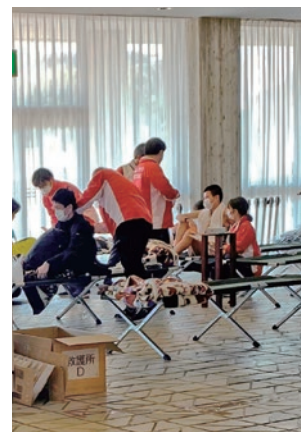
今村総合病院スタッフは、まず往路で鴨池陸上競技場南門付近の救護所を担当、その後移動して鹿児島市中央公民館・ホールへ。

いづろ今村病院スタッフは、鹿児島市の上本町交差点近くの救護所を担当しました。

暖かな日差しが降り注ぐ中、ランナーの皆さんの無事を祈りつつケアにあたりました。赤色のスタッフウェアに身を包み、皆さんの走りに元気をもらえた1日となりました。



＼今村総合病院スタッフ／



＼いづろ今村病院スタッフ／



法人事業本部 総務人事課より

投資教育動画シリーズ vol.3

企業型DC運用状況の報告(2022年)

○動画URL 省略

企業型DCで採用されている投資信託の運用実績についてお知らせします。

2022年は物価や金利の上昇により基準価格が下落しましたが、長い期間で見るとプラスとなっている投資信託が多数を占めました。

資産運用は長い期間運用をしていくことがとても重要だということを、今回の動画を見てもう一度確認しておきましょう。

また、今年の5月から新商品を追加しますのであわせてご案内します。これを機に運用商品の見直しをご検討ください。



新スタッフの皆さん 入職おめでとう



公益財団法人慈愛会は2023年4月3日、第74期入職式を開催しました。

法人事業本部（鹿児島市鴨池新町）をホスト会場に、今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院、奄美病院、徳之島病院、介護老人保健施設愛と結の街、鹿児島中央看護専門学校校の法人内7施設をオンラインで結び、新入職員124人が、配属先の各施設で式に参加しました。

今村英仁理事長は、式辞で「慈愛会は昭和9年の創設からもうすぐ90年を迎えます。皆さんの先輩方が、患者さんや地域の方々の求めに応え、求められる役割を地道に果たしてきた結果が、慈愛会の発展に繋がりました。慈愛会が今後も永続するために、2,300人の職員一人ひとりがしっかりとキャリアアップしていける制度を構築して、教育・人事・給与の仕組みを整えていきます。皆さんにはぜひ長く勤めていただきたいと思います。これからの慈愛会を一緒に作り上げていきましょう」と述べました。

新入職員の皆さん、入職おめでとうございます。慈愛会スタッフ全体で皆さんを応援しています！

第74期新卒新入職員

(氏名省略)



(氏名省略)



(氏名省略)





「慈愛会フィロソフィ」の浸透に向けて【愛と結の街グループの取り組み】



愛と結の街グループでは、一人でも多くの方に聞いてもらいたい、との思いから、毎週月曜日の全体朝礼にて各部署順番で発表しています。

各々が「慈愛会フィロソフィ Ver.1 35項目」から一項目を選び、読唱後に自分自身に置き換え、気づいた事や考え方、今までの体験やこれから意識して取り組んでいく事など、それぞれの思いを発表してもらっています。自部署だけではなく、日頃、話す機会が少ない他部署の職員のフィロソフィに対する考え方も聞け、月曜日の朝から元気や勇気をもらったり、時には感動ある話に胸を打たれる事もあります。これからも「慈愛会フィロソフィ」の項目一つ一つを大事にして、日々の行動の指針として活用していきたいと思います。

愛と結の街 介護福祉士長 川崎 友義

「自ら燃える」に思うこと



新人の頃、ある出来事からその人らしさって何だろうと悩む日が続きました。上司や先輩、同期に相談すると、いろんな色の火を私に点けてくれました。それから私の中で明確な目標が出来、この仕事が楽しくてたまらなくなりました。自分自身に火を点け更にいいケアを目指し、この火をいろんな方にお裾分けしたいと思うようになりました。しかしある時突然その火が消えてしまいました。私自身海深くまで沈んだような感覚になり、どうやっても火が点かなくなりました。しかし周りの方は、しけた私を乾くまでじっと温かく見守ってくださいました。今ではまた火が点くようになりました。あの頃を振り返ると肝心な目標がブレていたと思います。何度も壁にぶち当たると気持ちが折れてしまいましたが、明確な目標があることで自分自身の支えになることを身をもって学びました。

グループホーム 愛と結の街 介護福祉士 福満 貴幸

冊子抜粋 第6項 自ら燃える

物には可燃性、不燃性、自燃性のものがあるように、人間のタイプにも火を近付けると燃え上がる可燃性の人、火を近付けても燃えない不燃性の人、自分でカッカと燃え上がる自燃性の人がいます。

何かを成し遂げようとする人は、自ら燃える情熱を持たなければなりません。高校野球では、心から野球の好きな若者達が、甲子園という大きな目標を目指し、一丸となって活き活きと練習に励んでいます。その姿には、未来への可能性とエネルギーが感じられます。彼らは自ら燃える自燃性の集団なのです。

自ら燃えるためには、自分のしていることを好きになると同時に、明確な目標を持つことが必要です。

在宅医療

リレーエッセー

10

選択肢としての在宅

かごしまオハナクリニック 医師 横山 大輔

かごしまオハナクリニックでは、往診も含めて1日10～20名、1ヶ月320件ほどの訪問診療を、定期外来も行いつつ、医師2名＋看護師4名、24時間365日体制で行っています。

慢性疾患のフォローから、がん・非がんの終末期、精神疾患など様々な患者さんを訪問していますが、最期の場合に関する意見は様々で、意外にも在宅で全てを完結したいと思っている方ばかりではありません。

意識消失で救急搬送、肺癌末期・肺塞栓症と診断されたAさんは、ADLは全介助となりがらも、訪問診療で、化学療法・肺炎加療・喀血の治療を行い、自宅で家族との時間を過ごし、本人・家族の希望で最期は病院で息を引き取りました。

COPD末期のBさんは、頑なに病院受診を拒否しつつも治療を希望し、Nasal High Flowを使いながら在宅加療を行い、家族に見守られながら自宅で息を引き取りました。

いずれのケースも往診頻度は多く、医療必要度が高く、1回あたり1時間程度の診療時間を要するため、診療後はどっと疲れがでますが、家族の一員のように深く診療に携わり、人生最期の時間をともに過ごしました。

1950年代から衰退し、ここ十数年で再び脚光を浴びた在宅医療ですが、決して極論的に在宅診療に移行するのではなく、あくまで患者中心の医療の中で、等しく提供される選択肢の一つとして在宅医療があり、外来・病棟・在宅のケアの移行がシームレスに行え、より質の高い医療を提供し、患者さんの人生をサポートできればと願います。



色彩心理 ～カラーセラピー～

谷山病院 看護師・カラーセラピスト

潮 昌子 さん

世の中には様々なセラピストが存在しています。私が衝撃を受けたのは色彩心理のカラーセラピーでした。

取得するのに1回/週ほどの授業を半年ほど受講した記憶です。取得してもう20年になりますから記憶が薄くてすみません(笑)でもカラーセラピーとの出会いは鮮明に覚えています。

当時5歳だった娘は視力が低下し「心因反応」と診断されました。原因は、今問題になっている保育士の虐待でした。「おうちの人に言ったらだめよ」その言葉を頑なに守り、家族には苦しさを伝えなかった娘は、初めて家族以外の心理士さんに話ができたのです。保育園を中退したのち少しずつ回復していきましたが、娘の傷ついた心の回復を目指し、様々な治療を探しました。その時出会った1つがカラーセラピーでした。太陽から注がれる光には様々な役割があり、きれいに見える虹の色にも役割があること、色の1つ1つにポジティブな意味とネガティブな意味が複数存在すること、心惹かれる色、着たい服の色も心理を表すことを知りました。

ほんの一例ですが、赤は情熱や言いたいことが言えない。ピンクはやさしさや我慢など、色から感情を読み取り、表出させていきます。初めてカラーセラピーを受けた時、感情のままに色を塗り、カウンセリングを受けたのですが、心を丸裸にされた衝撃ともっと子供の心を知りたいと思ったのが受講のきっかけでした。まずは自身の気持ちに気づくことが大切です。人を守るには元気でなければ守ることはできません。

生きていれば様々な壁にぶち当たりますが、生活の中で色によって癒され、また必要な色で元気がチャージできれば回復も早くなります。

体のメンテナンス同様、心のメンテナンスも必要！

皆様が笑顔でいられますように。



(省略)

編集後記

前回、編集後記を担当したのは2020年12月のコロナ禍真っ只中。あれから約2年が経ち当時高2だった娘は島を離れ、医療職を目指し遠い地で奮闘しています。私といえば年女として迎えた新年早々「今年こそは!」と立てた目標に何一つ手を付けないまま、3ヶ月が経過してしまいました。

本年は卯年、これまでの努力が花開き、実り始める年とされます。飛躍・向上の年にするため、この4月から始めても遅くはない、と自分で自分を励ましているところです。

慈愛会もこの春、新しいメンバーを迎えました。このプロフェッショナルが、仲間を感じ互いを奮え立たせる、そんな一助になればと願っています。2023年もプロフェッショナルへのご協力、宜しくお願い致します。

徳之島病院 事務部 芳 あずさ

達人
Professional

慈愛会報 [プロフェッショナル]

2023年4月 Vol.31

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室

duties-support-room@jiaikai.jp



公益財団法人 慈愛会

<https://www.jiaikai.or.jp/>